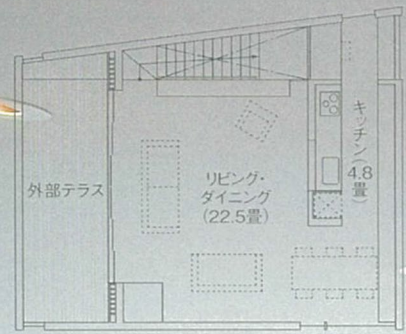
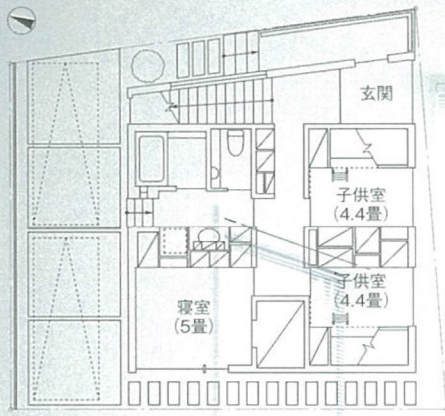


# モダンと優しさを内包する 白杉のギャラリーハウス

埼玉県・Mさんの家  
設計=矢板久明+矢板直子/矢板建築設計研究所  
コーディネート=ザ・ハウス



2F



1F



2階のLDKは、白基調の軽やかな空間。床は無垢の杉材。正面の白壁は杉板にモカラーで染色した。家具の脚をすべて杉材で統一し、インテリアの統合性をとっているのが、Mさんならではの美意識。

## 質感が際立つ 余計なものがない世界

キッチン奥、階段上に設けたデスクからリビングを望む。家族が共有する空間に、さまざまな暮らしのシーンを盛り込むのも、矢板さんの設計哲学のひとつ。



リビングとキッチン間に設けた杉板の間仕切り壁は、M邸の見せ場のひとつ。うっすらと木目を残すさじ加減が難しく「塗りなおしてやっとイメージ通りになりました」とMさん。



キッチン横のダイニングは、開口部から明るい日差しが差し込む心地よい空間。テーブルは空間の大きさに合わせて矢板さんがデザインしたオリジナル。

### デザイン性と快適性を 結んだ、木の存在感

閑静な住宅街のなかで、ひときわ存在感を放つ、スクエアな黒箱——それが、M邸の第一印象。墨色に塗られた唐松材の外壁の数箇所には、細長く切り取られた開口部がライン状に設けられ、閉鎖的ともいえるその独特のフォルムに程よいスケ感を与えています。

道路から浮き上がったプレート状のアプローチに導かれ、室内へ入れれば世界は一転——そこは白を基調とした静謐な世界が広がっていました。2階に上がると、ワンルームタイプの広々としたLDK。開口部から差し込む光は室内の白壁へ反射し、まぶしいほど室内を明るく照らしだしています。黒から白へ——この世界観の大きな転換は、設計を担当した建築家・矢板久信さん、直字さんの狙ったところだそう。

「周囲に立つのは、瓦を用いた日本の現代住宅ばかり。この街並みにしっくりと合うように、外観は瓦と同じ墨色でまとめました。その反面、内空間は白を基調とした静けさを大切にしました。美術品を飾ることを希望していたMさんのために、室内は余分なものがないストックな空間となるように作り込んだのです」（矢板久信さん）。壁を切り取ったような粋のない開口部、視界の中に入っていないスイッチプレートやコンセント、在来構造を感ぜさせないフラットな面で構成された空間——余計なものを排除してゆく繊細なディテールの積み重ねが、M邸のデザインの主題をはっきりと浮き上がらせています。

ともすると硬質で冷たい空間となり

がちな、白いミニマムな世界——しかし、ところどころに取り入れられた木の質感が、M邸に穏やかな心地よさを与えていました。床にはざらりとした質感が足にも目にも心地よい3・5cm厚の無垢の杉板。キッチンとの間仕切り設けられた杉は、うっすらと木目が残る程度に白く着色し、白基調の空間にしっくりと馴染ませています。

「室内に用いた杉材は浜松の木材メーカーとともに開発したものです。節が多いことからときに倦厭されることもある杉ですが、オスモで塗装することで白いフィルターをかけるようにほどよい質感を残し、モダンなデザインにも溶け込ませるようになりました。」

矢板さんの語るとおり、木の持つ質感と質感は、モダンデザインを主題としたM邸にリラックス性を与える重要な役割を果たしていました。そして、そこが住まい手のMさんが当初から望んでいた家のイメージだったという。

「自分が理想としていたのが、フィン・ユール（北欧の著名な建築家・家具デザイナー）が設計する家。快適性とデザイン性の両方を併せ持った、心地よい家です」（Mさん）。

モダンながらも、どこか人に寄り添うような質感と有機性を持つ北欧の建築家のデザインに惹かれたMさん。そのイメージに最も近いと感じた設計をしていたのが、矢板さん夫妻だったという。迷わず設計を依頼することに。そして完成した、Mさんが夢見ていた暖かくも静謐な白い箱。ところどころに飾られたプロンズ像や絵画、名作家具が空間に彩りを添える、心地よいギャラリイそのものでした。

アートが映える  
静謐な白い空間



ダイニングからリビングを望む。キッチン側の天井高3m22 pからテラス側へと緩やかに勾配する天井は、構造を現さず、平面に。あくまで静けさを大切にしたいデザイン。赤いエッグチェアがよく映える。



リビングと階段の間に設けた棚。ブロンズ像を飾ることを前提に、トップにイタリア製のガラススタイル、エッジはスチールで囲うことで、ブロンズの質感とのコーディネートを図った。



リビングの北側に設けたテラスは、室内をより広く感じさせる一体感のあるデザイン。白い壁で囲い、プライバシーを確保すると同時に、南からの日差しを受けて、室内に採光をもたらす。



シャープな黒い箱を思わせるM邸の外観。限られたライン状の開口部が、モダンのひとつさじ。イメージの色を実現するため、複数回のシミュレーションを重ねたそう。



玄関に入るとすぐ目の前に現れる、白い階段。これから始まるM邸の内世界を象徴する、モダンデザイン。